

創刊号

なたの通

2004年



創刊にあたって



白神自然学校校長 根深 誠

地元の人たちは知っているはずだが、白神岳という山名はあっても、白神山地という呼び名はなかったのである。「目屋の奥山」「赤石沢目のカッチ」「大川沢目のカッチ」などと呼ばれていた。カッチは奥山の意。

春秋林道の建設反対運動を起こそうとしたとき、弘前大学の奈良典明教授に相談に行き、さすが大学教授、と思わず、感心したことがある。反対はいいけど、大儀が必要だ、というのだ。そこで出てきたのが自然環境保全地域指定だった。紙面では詳述の余裕はないが、その当時、奈良教授も含めて「弘西山地」と呼んでいた。弘前の「弘」、西津軽の「西」、そして弘西林道。

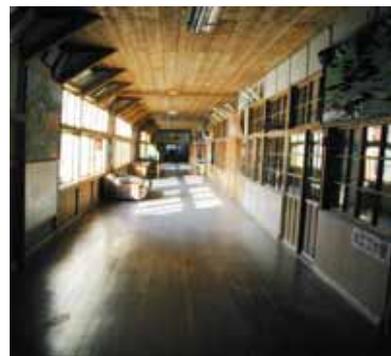
林道建設反対運動をやろうというのに、林道に冠せられた名前をつかうなどとはいかがなものか、どうもスッキリしない。では、どうする、ということになり、「白神山地」でいこうと決めた。それ以前にも、山好きの間では呼ばれていたようだが、山地名として市民権を獲得したのは世界遺産同様、反対運動の結果だった。

その反対運動の天王山が、赤石川流域住民の決起であったことを、当の住民はご存知だろうか。はやいもので17年前の1987年のことである。「自然環境が維持されることと、地域振興は同じ方向で論じられねばならない」開発側と真っ向から対立する思想だった。赤石川流域の全集落で集会をひらいた。すべての集会に出席したのは私一人である。

白神自然学校の開設が赤石川でなければならぬ理由がここにある。



青森県西津軽郡鰺ヶ沢町一ツ森地区にある白神自然学校。同地区にあった小学校跡を再利用した。



木のぬくもりが懐かしさを感じさせる

特定非営利活動法人 白神自然学校概要

白神自然学校一ツ森校は2003年7月29日青森県から特定非営利活動法人として認証を受け、事務所を青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88番地2に置き、2003年10月26日に開校式を行い自然学校としてスタートを切った。

この自然学校の目的は、自然学校として白神山地の山、川、海の自然を創造的に活用した自然体験の活動を実施すること。また、ゆとり教育・環境教育のリーダーを養成し、地域の地域経済振興のために森林整備、農村振興、自然公園の整備など、幅広い森林保全作業も行き、国土の健全な発展に寄与することを目的として発足した。

特定非営利活動として、次の活動を実施する。

- 1：環境の保全を図る活動
 - 2：社会教育の推進を図る活動
- (事業の種類)

上記の内容の目的を達成するため、特定非営利

活動に係る事業として下記の事業を行う。

- 1：白神山地の自然体験の実施
- 2：白神山地の有効活用のため、地元講師育成活動
- 3：白神山地エコロジー体験のプログラム開発
- 4：人材養成講座並びにガイド養成講座の実施
- 5：グリーンツーリズムの推進
- 6：自然教育のための木工製品の開発
- 7：自然公園のガイド及び環境の整備
- 8：森林の整備事業並びに広葉樹の育林事業
- 9：自然学校のねらい

白神山地の世界遺産になった経緯を学ぶことにより、自然保護運動の原点を学ぶ。
里山の生活、文化に触れ、体験することにより、白神山地と里山の人々との関わりを学び、自然を深く理解する。

グリーンツーリズムを推進し、地域振興を進め、自立した白神の里山郷を目指す。



代表理事 永井雄人



校長 根深 誠



副校長 吉川 隆

役員一覧

氏名	住所
永井雄人 代表理事	仙台市太白区長町南3丁目15番7-101号
根深 誠 副代表理事	弘前市大字桜ヶ丘一丁目9番地12
今 正博 理事	青森市奥野3丁目9番30号
田村早苗 理事	青森市奥野3丁目2番5号 エバーグリーン桜川404号
関 智子 理事	青森市幸畑2丁目5番11号 学園ハイツ11号
一山吉治 理事	八戸市江陽一丁目14番5号
上村康之 理事	青森市奥野3丁目4番18号
櫻庭美奈子 理事	弘前市大字撫牛子二丁目7番地11
金枝知里 理事	青森市筒井4丁目6番36号 メゾンひまわり101号
花田道男 監事	青森市大字桑原字稲葉137番地の177

白神自然学校メニュー

- 1) プナの森授業 <1年間実施>
○半日授業

授業料	大人	2,000円
	大学生以下	1,500円
保険料は別途申し込み(@500円)		

開校式

- 1時間目
白神山地の歴史、里山文化を学ぶ(50分)
→教室授業
- 2時間目
春秋林道歴史資料館とまたぎ資料館の見学(30分)

3時間目

実習授業【山菜料理、薪割り、炭焼きなど】(80分)

昼食 ※希望者には、おにぎり2個と汁物あり(500円)

1 日授業

午前中は「半日授業」と同じ

4 時間目 季節の山・川・海の体験コース

くろくまの滝一周コース

一ツ森登山コース

4月～11月(春～秋期間実施)

赤石川/川遊びコース

その他里山の体験コース

閉校式

授業料	大人	4,200 円
		大学マイクロバス代・ガイド代
含む生以下	3,700 円	
	昼食代・	

スノーシューでのトレッキング 12月～3月(冬期間実施)

2) 自然学校施設利用計画

1 サイクリング用の自転車無料貸し出し(25台限定)

2 スノーシューの利用

3 テント張り(体育館)、キャンプファイヤー(グラウンド)

3) 実習授業(自然学校内)

・山菜料理教室 ・木こりの実習(薪割り、火おこし、飯ごうすいさん)

・スキーやトレッキングのレクチャーなど

4) 季節の山・川・海の体験コース(自然学校外)

・田植え ・畑仕事 ・稲刈り ・山菜採り ・沢登り、ブナの森での遊び ・ブナの苗づくり

・シャケのつかみ取り ・花ごよみ/赤石溪流沿いの四季折々の植生散策

・ホテル観察会、モリアオガエル観察会、カブトムシ観察会 ・春の歩くスキーで白神トレッキング

・花観察会(水芭蕉・カタクリ等の咲いてある場所にハイキングコースをつくって案内)など

5) 植樹体験コース <6月～7月初旬> <10月～10月下旬>

6) 森林ボランティア <4月～10月>

1 下草刈

2 地ごしらえ

3 ウサギの食害ネット張り

4 ブナの種拾い(実った年のみ)

5 ブナの苗床づくり(実った年のみ)

7) 自然学校施設メニュー



林道建設当時

・常設展示は「天然記念物白神山地に棲むクマゲラ展」

・液晶ビジョンを使った春秋林道問題、「なぜ白神山地は残ったのか」を通じ、当時の資料をもとに学ぶ授業である。この地区のマタギ達が開発から白神山地を守った人達だ。だから、ここに来なければ知ることができないことがいっぱいある。地元の人達が語る白神の話から、白神山地プロジェクトXの真実の歴史が心に焼き付けられる。

・マタギの液晶ビジョン

白神山地は、昔からマタギの里として人々が関わってきた山である。特に、このひとつもり一ツ森地区・おおじかり大然地区は、赤石マタギが住むマタギの里だ。その狩猟の歴史は1000年を超えるといわれている。白神の山を知り尽くした現地の山の達人が、あなたのところを核心部分へと誘う。

8) 【白神旬の味】のお届け

白神自然学校は、白神の里で採れた新鮮な山菜や野菜・魚類の加工品を販売し、白神の里の味と香りを届けます。是非立ち寄って下さい。特産品の酒まんじゅうはおいしいですよ。

会員になると、一ツ森の里山で採れた山菜(春のお届け)・野菜(秋のお届け)のどちらか好きな方を選んでいただき、お届けします。

9) ボランティアガイド養成

自然学校では、白神山地のブナの森に関する基礎知識を年5回、講義する。

5月～9月毎月1回、第3土曜日13:00～17:00

参加費: 1回 1,000円

10)クマガラの棲むブナの森復元基金

11)「白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川」の事務局

ブナの植樹を行うため、ブナの苗床を管理、運営している。下草刈や森林ボランティア活動に寄与している。植樹祭は6月26日～27日の2日間。



■会員募集

(1) 正会員 年会費 5,000 円 (初回金なし)
春は山菜、秋は里山の野菜【白神旬の味】をお届けします

(2) 賛助会員・企業・団体を対象
年会費 1 口 1,000 円以上 (1 口につき産直をお届けします)

(3) 自然学校 協力者・企業募集中
この自然学校は、皆様の応援に支えられて運営しています。
今、自然学校が必要とし、応援してもらいたい内容については、当会のホームページ上でその都度公開していきますので、是非申し込み、ご協力をお願いします。

会員並びに協力者、協力企業には、自然学校の学校通信「なため通信」を届けます。

■会費・購読料の振込み先

郵便振込み先：02280-3-99083 白神自然学校

青森銀行鯉ヶ沢支店：1008420

白神自然学校 代表理事 永井 雄人

■書籍等の発行・紹介

- ・エコロジーマニュアル『白神 ブナの森博物誌』 ¥1000
- ・ハンドブック『白神山地入山心得八箇条』 ¥315
- ・白神山地ガイドマニュアル ¥315
- ・岡島成行『自然学校をつくろう』(山と溪谷社) ¥1200
- ・根深誠『白神山地をゆく ブナ原生林の四季』(中公文庫) ¥980
- ・佐藤昌明『白神山地 一森は蘇るかー』(緑風出版) ¥2310

●お土産に世界遺産「白神山地」の水はいかがですか。

●赤石川の金あゆ寿司はいかがですか(要予約)。

●白神の清流から作られた「白神源流米」はいかがですか。

いずれも自然学校で申込み下さい。

新連載

なための想い出

根深誠(ルポライター)

大正十五年川魚狩紀年

白神山地が世界遺産に登録される以前、おそらく人々にとっても自然にとっても、もつとも幸せな時代だったことはまちがいない。人々は自由に山に分け入り、そこからの恵みを生活の糧としていた。なかば自給自足型の生活が山村の特徴であったろうし、そこには共生、共鳴、共振、共存があったであろう。いまは巨大ダム開発で消滅した、西目屋村の砂子瀬と川原平、通称砂川地区の人々が山に分け入るため利用した^{ナカミチ}杣道(森の小道)が何本が残っている。その中のひとつ、暗門の滝から赤石川二股へ越えていくコースがある。暗門の滝の落ち口付近で二股に分かれ、右がミノシ崎沢、左がフガケ沢と呼ばれている。どちらの沢にも杣道が通っている。

フガケ沢にはスケム滝、網滝、モックリの上げ、などという、地元の人々が命名したであろう場所がある。そのフガケ沢から赤石川の支流ヤナダキ沢に、杣道をたどって分水尾根を超えていくと、流れに出る手前に、樹齢三〇〇年はゆうにあるうかと思われる、ブナの巨木があった。後年折れて、いまは無い。このなためは、そのブナの幹に刻まれていたものである。記念の「記」が「紀」になっているのがおもしろい。ここでの川魚はサクラマスのことである。

私とそのブナのなためを最初に見たのは一九七〇年代の後半である。国の自然環境保全地域指定候補地の調査行のときだった。高校時代からの山仲間、現在、白神山地ビジターセンターの館長をしている原田君が自然保護課に在職していたころで、イワナ釣りの好きな私はそれが目的で、案内人の一人という名目で同行したのだった。

先日、この稿を書くにあたって原田君に電話し、当時のことについてたずねたのだが、なにしろ三〇年ほど昔のことであり、互いに記憶がさだかでない。それでも、私よりは確かなようで、彼によると、何回も出かけたとのこと。摩須賀岳に登ったこともあったし、降雨で赤石川が水嵩を増して渡渉できなくなり、岸辺のブナをノコで切り倒して橋にしたこともあったし、網滝から滝ツボに落ちたこともあったし、と彼はいろいろ語った。

私にはそれらがひとつらなりになって一回の山行のように記憶されているのだった。鮮明に憶えているのは、赤石川二股、いまはヤナギが繁っているけれど、当時、そこはマムシ川原と呼ばれて、砂地でマムシが多く、マムシの這った跡が砂地のあちこちに見られたこと。その対岸にある、ちいさな滝の落ち込みで、私は四〇センチほどの大イワナをかけて胸が高鳴り、足がふるえた。

あのころ、白神山地という山地名は、まだなかったのである。

白神自然学校からの活動報告

○雪囲いはずしとブナの苗床づくり

4月10日、白神山地を守る会鯉ヶ沢事務所の雪囲いはずしを行った。総勢11名の会員が、朝から手際よく事務所の雪囲いはずしをやっていった。青森から「漁玉」を運んでくる人、前日に昨年の仮植してあった苗木を植え替えるために1,000本運んできた。



白神自然学校の内装も整備した。各教室の入り口に表示板を書く人、作る人が手際よい作業で14時ごろまでにすべての作業日程を終了し帰途についた。帰りは全員でぽっかぽっか温泉に入り、作業の汗を流した。

その週は連日ブナの苗床の作業が続いた。2週間前に石灰をまいた苗床にはパーク堆肥が入れられ、トラクターで何度

も耕運して土を柔らかにし、昨年の仮植した苗木と青森からもってきた苗木を6,000本を地植えた。苗床にブナの苗木がそろい、あとは水の管理、下草刈り、殺菌、殺虫作業と続き、桜の咲く時期には一段落する。4月19日以降からゴールデンウィーク前までは、ビニールハウズづくりと、ビニールハウスの中に入っている、昨年植えたブナの種の寒冷

舎をはずす作業がある。昨年は、ブナの種が不良だったが、取れた分だけ秋蒔きしたので、その発芽が徐々に始まっている。この一ツ森地区はまだ雪が残っていて、今年の白神ライン、赤石溪流ラインの開通は5月24日ごろの予定である。

○春の芽吹きツアー

4月17、18日の2日間、「春の芽吹きツアー」を実施。参加者は少なかったが、1日目は赤石溪流沿いの春のブナ林の芽吹きを楽しむことができた。ヤナギが芽吹き、カタクリ、キクザキイチリンソウが咲いていた。ブナの芽は着実に膨らんでおり、陽のよく当たる箇所では芽吹きが始まっていた。今回はまだ開通していない赤石溪流を、徒歩でくまの滝まで歩いた。赤石川の水の色は、春の雪解けの薄緑色をした独特の色だ。道にはたくさんの岩石や残雪、そして、倒壊したブナの木やヤナギなどの木が道路をふさいでいる。また、道には猿のウンコがたくさん落ちていた。ウンコを枝でほごしてみると繊維質の糸がたくさん入っていた。おそらく冬の間食べるものがなくて、木の皮とかを食べたのだろう。この

猿軍団は、春のフキノトウ(バクケ)を食べに山奥から陽が当たる道端などに降りてきたものと思われる。

途中、オニグルミの残骸を発見。ネズミかリスが食べたような後がついていた。参加者も2個のオニグルミを発見し、そばにあった石で割って食べたが、とても濃厚な味で、美味と評価。参加者は至る所で立ち止まっては、白神の溪流沿いの木々と草花の春の芽吹きと草花の開花を楽しんだ。2日目は、十二湖の青池付近を散策した。この2日間は天気がとてもよく、初日はパラパラ雨の降る場面もあったが、総じて楽しいツアーだった。残念なことに、クロクマの滝だけは途中雪崩があり、最後までいけなかった。「きっと来年もこいよ。今年はここまで」と言われたような気がした。

○白神自然学校住民説明会を開催

4月17日午後19時より、自然学校の教室で一ツ森地区と大然地区の住民説明会を開催した。鯉ヶ沢町役場からも企画課、観光商工課、農林課が出席し、永井代表理事より、2004年度の白神自然学校の年間行事が発表され、地元ガイドの件や地区内を多くの方が通ることへの理解を求めた。また、自然学校で事業としてはじめて「白神まん」蒸しまんじゅうの試食会も行われた。液晶ビジョンでの試写会が行われた後、夏に地区の中で漁玉にローソクを入れて

地区内を明るくしたいという提案もあり、皆さんから賛成を得られた。ほかに、白神の旬の味を産直としてインターネット販売することや、東京での販売する計画も発表され、この地域の四季折々の恵みが首都圏に届けられることに対して、参加者からは歓びと驚きの声があふいた。この日は、皆さん和やかな雰囲気の中で、今後の活動内容を話し合ったが、毎年数回はこのような話し合いを設けながら、地域の人たちと共に自然学校があることを実感していきたい。

○新発売！ 自然学校初の特産品 白神まん

白神自然学校オリジナルの特産品、「白神まん」は一ツ森地区の婦人会の真心こもった酒まんじゅうだ。白神山地のすそ野で育ったジャージー牛のおいしい牛乳と、地元で採れた、かぼちゃ、にんじん、ヨモギ、ほうれん草などを使い、人工着色料は一切使っていない手作りの一品。地元の婦人会の人たちは、このおいしい「白神まん」を、訪れるたくさんの人々に食べてもらいたいと、希望と抱負を胸に製作している。2

販売所：白神自然学校、鯉ヶ沢町「海の駅」、八口ー白神、ミニ白神、各種ツアー 配達自然学校で行う



2個セット 210円(税込み価格)

今後の行事予定と参加者募集

○第3回白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川

Beech Planting Festival in The Shirakami Mountaints, Akaishigawa Executive Committee

白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川実行委員会

《実行委員会》白神山地守る会 鯉ヶ沢町役場 その他
共催：青森県・津軽森林管理署・フェリシモ・日本財団・世界自然保護基金ジャパン・青森県リサイクル事業組合
モリタカバン・白神農協・津軽森林組合・その他
《参加費》一般3000円 中学生以下は2000円 ブナ苗木2本、昼食（おにぎり二個と汁物込み）
マイクロバス往復代と保険代・パスポート他込み。

《開催日程並びに時間帯》

開催日：平成16年6月26～27日（土・日）2日間

場所：赤石川上流域、津軽沢林道域

日程：1日目 午前9：30 現地集合 10：00 開会 セレモニー30分 10：30 植樹・下草刈りを午前中実施
午後12：00～13：30 昼食（おにぎり汁物のサービス有り） 13：30より、各コース毎散策

1：津軽森散策コース（1時間30分）2：奥赤石ブナ遺産資源保存林散策コース（1時間30分）

3：クロクマの滝散策コース（2時間）4：津軽峠散策コース（津軽峠の下も含む）（1時間30分）

《シャトルバスの運行》

朝7：30 鯉ヶ沢町役場ロー白神前の駐車場に集合（自家用車等） 7：35 鯉ヶ沢町駅 8：00 白神大然公園前からバス
が発発予定（有料で往復、帰り各コース経由して戻ってくる） 午後17：00を予定 解散 宿泊（2日目のグリーツ
ーリズムの企画に参加予定者等）

参加申し込み 問い合わせ先：

○白神自然体験活動リーダー養成講座

いま、自然体験活動は、地域づくりや環境学習など、さまざまな観点から注目されています。今回の講座では、白神の身近な自然を題材にして、現場で参加者と自然の間に立つリーダーを担う人材を養成します。白神自然学校一ツ森校は、学校周辺をフィールドとして、次代を担う子どもたちの自主的な環境活動を支援するために、プログラムの開発及びその推進役となる人材の養成を行います。

「ガイドとして白神の素晴らしさを伝えたい」

「自然学校の施設を利用して、白神を紹介したい」

「植林や下草刈などの作業を通して、森の復元を手伝いたい」

「一ツ森登山・遊々の森・ミニ白神など、一ツ森地域周辺を案内して、自然の豊かさを伝えたい」

「山菜料理の加工・木工品・なわづくりなどの伝統技術を通して、自然との付き合い方を伝えたい」

このように、鯉ヶ沢町特有の山、川、海がそろったフィールドを活かし、実践的に活動できる指導者養成の研修を下記のとおり実施します。奮ってご参加下さい。

開催期日 平成16年8月6日（金）～8日（日） 2泊3日

会場 白神自然学校一ツ森校 青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字一ツ森町字上禰88-2

主催 NPO法人白神自然学校一ツ森校 社団法人 日本環境教育フォーラム

この講座を受講すると、自然体験活動推進協議会（CONE）が認定する自然体験活動リーダーに登録できます。

É



自然体験活動推進協議会CONE（通称：コーン）教育・福祉の分野において、昨今体験学習が大変注目されています。中でも自然体験は、文部科学省が各省庁と連携して充実に向け取り組んでいます。こうした背景から自然体験活動の全国的な拡がりを目指して、自然体験をひもとく「指導者」を育てるために、日本全国各地の自然体験活動にまつわる主な団体が肩を組んで生まれたのが「NPO法人 自然体験活動推進協議会 CONE(通称:コーン)」です。自然と遊ぶには、経験豊かな人がみんなを引っばってくれば楽しさは倍増です！

講座の概要と応募方法

1. 開催期日 平成16年8月6日(金)～8月9日(日) 2泊3日
2. 開催場所 白神自然学校一ツ森校 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88-2
TEL & FAX : 0173-82-7057
3. 募集定員 20名(定員になり次第、締切り)
4. 参加費 20,000円(宿泊料、食費、保険料) 受講料は無料
「自然体験活動リーダー」への登録には、別途登録料2,000円が必要になります
5. 募集対象 自然体験活動や環境教育に関心のある18才以上の方
指導者としての経験は問いません。教員や子ども会のリーダーの方も歓迎します
6. 講師 根深 誠 (ねぶか・まこと) 白神自然学校 校長
7. スケジュール(予定)

第1日目「目的の共有化・自然体験活動とは？」

- 受付/オリエンテーション
知り合いになろう～目的の明確化、共有化
- 午後 プログラム体験 1
プログラム体験 2
いろいろな種類の自然体験のプログラムを体験します
レクチャー 1「自然体験活動とは」
- 夜 自己紹介、交流会

第2日目「自然体験活動実施のプロセスを学ぶ」

- 午前 プログラム体験 3
レクチャー 2「自然解説の技術」
- 午後 レクチャー 3「体験的に学ぶということ」
レクチャー 4「コミュニケーション・プレゼンテーション」
- 夜 レクチャー 5「安全と責任」

第3日目「プログラムをやってみる、コーチング」

- 朝 素材ウォーク(活動計画作成または樹立のための情報収集)
- 午前 プログラム計画作成または樹立実習
参加者自身が短い自然体験活動を計画します
- 午後 プログラム発表・指導法(コーチング)
おぎないの講義
- 終了

8. 主催 NPO法人白神自然学校一ツ森校、社団法人日本環境教育フォーラム

9. 申込方法

参加を希望される方は、Eメールまたは別紙応募用紙により、郵送またはFAXでお申し込みください
ホームページ(<http://www.r20.7-dj.com/~econet/>)からも申し込みできます

10. お申し込み・お問い合わせ先

特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校
〒038-2723 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88-2
TEL / FAX : 0173-82-7057 メール : econet@r20.7-dj.com



白神自然学校 2004年度 年間ツアー計画

ツアー名	いつから	いつまで	宿泊計画	内容	参加費
白神マタギツアー	1月10日	1月12日	2泊3日	マタギと一緒にスノーモービルに乗って、入山したり、スノーシューを履いて冬の白神山地や赤石川周辺と十二湖を歩くツアー	¥31,000
白神マタギツアー	2月7日	2月9日	2泊3日	1月同様、マタギと一緒にスノーモービルに乗り白神の山々を走り、スノーシューを履き赤石川周辺と十二湖に出かけるツアー	¥31,000
白神芽吹きツアー	4月17日	4月18日	1泊2日	早春のブナの、萌黄色した芽吹きを写真撮影したり、残雪の上を歩きながら、白神山地の命たちが目覚める時を体感するツアー	¥18,000
白神日帰りツアー	5月1日 6月5日 7月3日 8月1日 9月5日 10月2日 11月6日		日帰り	5月から11月は毎月、月初めの第1週の日程で、日帰りツアーを開催します。コースは事前に確認して下さい。なお、集合場所は白神自然学校一ツ森校で午前8時とします。ただし、最小人員5名で実施します	¥2,500
春のエコロジーツアー	6月12日	6月13日	1泊2日	白神山地を守る会(NPO)が毎年主催する、春の白神エコロジー体験ツアー(天狗岳)	¥18,000
ブナ植林祭	6月26日	6月27日	日帰り 宿泊希望者は1泊2日	津軽沢林道にて第3回のブナ植林祭	¥3,000
子ども夏休み体験	8月5日	8月9日	3泊4日	山、川、海の自然体験を実施します。自然学校に宿泊して行う、楽しいサバイバル体験ができます。自然の中で宿題をしよう。	¥20,000
秋のエコロジーツアー	10月9日	10月10日	1泊2日	白神山地を守る会(NPO)が毎年主催する、秋の白神エコロジー体験ツアー。白神ライン横断、巨木と滝体験ツアー	¥18,000

参加申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校

郵送先：〒038-2723 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88-2

TEL&FAX：0173-82-7057

e-mail：econet@r20.7-dj.com

なため通信 創刊号

発行日 2004年5月15日

発行所 特定非営利活動法人 白神自然学校

〒038-2723 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88-2

TEL0173-82-7057

発行責任者 永井雄人

編集責任者 丸谷 馨